

AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

TOP INTERVIEW

株式会社金萬
代表取締役 大内 睦子氏



「28個食べました」でおなじみの秋田銘菓「金萬」は「変わらぬ味に真心こめて」というキャッチフレーズの通り、販売開始時から約70年に渡り伝統を守りつつも、新たな挑戦に取り組んでいる。2016年には、サンリオとコラボし「ハローキティ金萬」を販売し大きな話題となった。また、秋田にマクドナルドやサーティワンアイスクリームの1号店を誘致し経営していることでも知られている。2021年度から秋田ロータリークラブ初の女性会長に就任。社会奉仕活動にも積極的に取り組んでいる。

「変わらぬ味」と「新しい発見」への想い

工藤 いつもお世話になっております。今日はよろしくお願いたします。「変わらぬ味に真心こめて」のキャッチフレーズで有名な金萬の経営を行いながらも、一方で新しいことに取り組む姿勢や想いについても、とても興味深く感じます。是非もう少し詳しくお聞かせ下さい。

大内 今から50年前のことになりますが、はじめてハンバーガーのマクドナルドというものに会いました。当時のマクドナルドは、東京で食べるとか修学旅行の京都で食べるなど、秋田では手に入るものではなかったです。かといって県民も全く認知度がないと言う訳ではなく、CMなどで目にすることも多かったように記憶しています。はじめて食べたとき、私はぜひ秋田に持ってきたいと思いました。そう思い立ってマクドナルドの店舗開発に7年も通い続けました。中々出店が実現できずに途中で新しいピザチェーン店を秋田に持ってくることに妥協しかけ、でもやっぱりマクドナルドをあきらめることができず、最終的に日本マクドナルドの藤田田（フジタデン）社長にお会いし想いを伝えたいという気持ちが芽生えました。藤田田さんは「会いたいなら金の名刺を持ってきなさい」というほどのお方で、まさか本当にお会いできるとは思っていませんでした。

工藤 え！？藤田田さんって日本マクドナルド創業者の藤田田さん！ですか？？？す！すごい！ちなみに当時の大内社長はどうしてそこまで秋田でマクドナルドをやりたいと思われたのですか？

大内 単純に自分の食べたいものをみんなにも食べてもらいたい、と思ったのが一番の理由でしょうか？藤田田さんとお会いすることができ、マクドナルドの出店には相当に難しい条件が提示されましたが、私は自分の思いが一番先に来ていたので、とにかく努力をしてマクドナルド側からの条件をひとつひとつクリアしていきました。

工藤 気になります。例えばどのような？

大内 当然私はマクドナルドの社員ではなく、それ故にマクドナルドのやり方を知らないし何の権利もなかったのが当初はマクドナルドの正式な社員やクルーの方を店舗運営人数にあわせてお貸しいただく形で雇って準備と営業をしました。その間、旅館を借り切って宿舍を用意したり、一部の社員の方には賃貸マンションを用意したりもしました。その間にも秋田で雇った社員を当時東京で一番忙しいマクドナルド用賀店で修行させたり、私もマクドナルド原宿店で修業したりもしました。

大変でしたが、藤田田さんにお会いできたこ

とで話が進み、結果として秋田でマクドナルドを34年前に開店できた時は本当にうれしかったです。

工藤 きっと大内さんの強い想いがなければ叶えられないような出来事ですね。藤田田さんというとても有名な経営者ですが、藤田田さんとのエピソードみたいなものは他にも何かありますか？

大内 そうですね。藤田田さんが秋田にお越しになり、契約の最終段階を終えたときのことで、「最後に一ついいか？稲庭吉右衛門のうどんを手に入れたい」とのことでした。私は社員のツテを頼りに、奇跡的に20分で用意することができました。「これなかなか手に入らないだよ。気に入った。」と本当に喜んでくれました。よっぽど気に言ってくれたらしく、出店パーティーを開くと伝えると、何と!?ご本人が秋田まで来て下さいました。そのパーティーには藤田田さんにお会いしたいと秋田の政治家や財界人がたくさん来て下さいました。その時改めて凄い人と出会えたことを実感しました。その出会いがきっかけで、秋田にもサーティワンアイスクリームやトイザラスの出店をすることができたと思います。

工藤 想いの大切さをあらためて感じます。話は変わりますが、現在私たちは秋田の起業

あきたBIZフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

家を増やすために活動しています。秋田でビジネスをしていく上でのメリットに感じることがあればお聞かせください。

大内 個人的には東京で事業を展開するのはとても難しいことだと感じております。一方地元秋田では、知り合いが多いのでビジネスのやりやすさも感じております。最初は一人で不安でしたが、周りに認められていく中で徐々にやりやすさを感じました。

工藤 次に秋田においてビジネスチャンスに思える分野があれば教えてください。

大内 秋田にはない文化を取り入れる余地でしょうか。特に食の分野では、秋田には多くの飲食店がありますが、例えば、うなぎ、すき焼き、ステーキなどの専門店も少ないですね。もっと多彩な専門飲食店があれば、秋田にいなながらも色々食べられる楽しみが増えるといいなと思います。色々な地域の食文化や料理、食品を取り入れたおいしいお店が増えることで、またそこに秋田の食を掛け合わせることで秋田の豊かな食文化の価値を更に高めることができるのではないのでしょうか？

工藤 確かに専門の飲食店は少ないかもし

れませんね。でも県外の食文化も取り入れようという視点は秋田の中では意外に珍しい視点なのかもしれませんね。最後に秋田の起業家に向けて、メッセージをお願いします。

大内 きっと起業は難しく、思いがけないことが沢山あるのだと思います。だからこそ忍耐も必要でしょうし、基礎がないとつまずいてしまいそうな気がします。自分自身、古いものを変えずに守りながらも新しいことをしています。特に変えずにやっていくのはとても大変です。昔は10年続けたいしたものと言われましたが、今は3年ぐらいになっていると感じています。新しい視点を取り入れつつも、大事なところや基礎はブレないように頑張ってください！

最後に大内社長のお気に入りの本を教えてくださいました。

大内社長は学生時代から文藝春秋を愛読しているそうです。お父様が読んでいたことが影響しているようで、特に「オヤジとおふくろ」というコーナーが好きだとのこと。このコーナーでは、著名人のご両親のお話を書いてあり、読むのがとても面白いそうです。また、著名人の「同級生交歓」のコーナーもお気に入りとのこと。

また、大学時代からゴルフを趣味にしており、ゴルフを通じて、異なる業種の方や老若男女問わず、交流を深め人脈ができたそうです。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター 秋田大学2年 小林 恵大

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

